

◆森林の消失初の減少 それでも東京の24倍  
 国連食料農業機関 (FAO) がまとめた「世界森林資源アセスメント2010」での報告によると、00年代に世界で消失した森林の面積は東京都の約24倍の年間520万ヘクタールであり、90年代の830万ヘクタールに比べて大幅に減り、消失率が初めて減少に転じた。中国やインドで大規模な植林が実施され、新興国の環境意識が変化していることを示唆している。

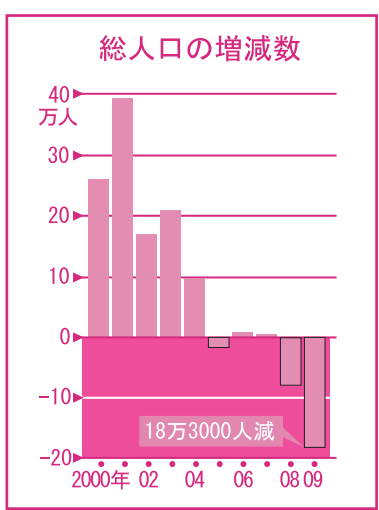
世界の森林は全土地面積の約3割に相当する約40億ヘクタールで、90年代には、農地への転換や火災などで毎年1600万ヘクタールのペースで減少していたが、00年代は年間約1300万ヘクタールに鈍化。さらに、中国などで植林が進み、森林が年間700万ヘクタール以上増え、増加分を差し引いた00年代の純減少面積は年間520万ヘクタールで、特に中国やインド、ベトナムではこの5年間で年間400ヘクタールも拡大した。

FAO担当者は「中国などの植林計画も20年までに終了する。地球温暖化防止の視点からも森林減少が加速しないよう、各国は森林の保全と管理を強化しなければならない」と警告する。

(4/4)

◆総人口最大の減少 女性も「自然減」

総務省が発表した2009年10月1日現在の人口推計によると、日本人と外国人を合わせた総人口は2年連続で減少し、18万3千人(0.14%)減の1億2751万人となったことが分かった。1950年に現行基準で統計を取り始めて以降、減少は3回目、落ち込み幅は今回が最大。女性も初めて、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」に転じた。



男性だけでなく女性も自然減になったことで、総務省は「本格的な人口減少時代に入った」と分析している。

自然増減は、男性が5年連続のマイナスとなる5万4千人減で、減少幅が前年より1万3千人拡大し、女性は7千人増から5千人減になった。

総人口に占める65歳以上の割合は0.6ポイント上昇し、22.7%となったが、14歳以下は0.2ポイント低下の13.3%で、少子高齢化が一段と進んだ。

(4/17)

◆中高生の喫煙 10年で急減

厚生労働省研究班が実施した中高生を対象にした全国調査によると、喫煙習慣がある中学生や高校生の割合が、過去10年ほどの間に大きく減少したことが分かった。

特に変化が目立つ高校生男子は、1996年度の調査では5人に1人が「毎日吸う」と答えたが、2008年度には20人に1人に減った。主任研究者は「成人男性の喫煙率もこの間、大きく低下しており、たばこを吸うのは格好悪いという社会的イメージが定着した効果ではないか」と話す。

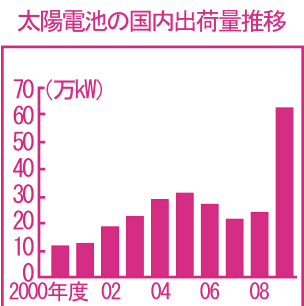
「毎日吸う」と答えた高校生の全生徒に占める割合は、男子4.7%、女子1.7%で、96年度調査の18.0%、4.6%からそれぞれ低下した。中学生はもともこうした生徒の割合が低く、男子0.8%(96年度2.4%)女子0.3%(同0.7%)だった。

生徒の喫煙と家族の喫煙に関係があることも示された。毎日喫煙すると答えた生徒の家庭環境を調べると、両親やきょうだいに喫煙者がいる場合が大半を占めていた。

(4/19)

◆太陽電池出荷が2.6倍 09年度国内住宅用の市場急拡大

太陽光発電協会の発表によると、2009年度の太陽電池の国内出荷が、前年度の2.6倍にあたる62.3万kWに達したことが分かった。記録が残る1981年度以降で最高の伸びとなった。09年1月から補助金制度が復活し、11月からは余剰電力を従来の2倍で買い取る制度が始まったため、需要が急増した。



住宅用が54.3万kWと全体の9割を占め、約14万世帯が新たに太陽電池を設置した計算となる。特に、余剰電力の買い取り価格が2倍に引き上げられた年度後半の出荷は前年同期比3倍超で推移した。05年度に国の補助金が打ち切られた後、06年度、07年度と前年割れが続いたのとは対象的で、太陽電池の普及はなお補助金頼みの状況だ。

メーカー側には「補助金を背景にした国内市場の伸びは当面続く」との見方が広がっており、各社が相次いで大規模な増産計画を発表して、10年度末の国内メーカーの太陽電池生産能力は、09年度末の1.6倍になる見通し。

(5/19)



公衛協活動研究セミナーは、昨年度まで、移動センター事業と称していたもので、東部エリアと北部エリアにおける公衛協活動の活性化を図る「場づくり」を目的とした事業。当会地域活動支援センター職員が会場まで移動して各種のセミナーを行う。

具体的には、公衛協活動や脱温暖化のまちづくりなどに関する最新の事例や情報を提供し、体験交流や企画づくりなどを通して、公衛協組織の強化とリーダー育成を行う。

会場とし、八月を除く四月から二月まで毎月、第三火曜日に開催。ただし、九月は一日の宿泊研修となる。基本プログラムとして、まず、高原の家七塚の敷地内にある「万葉の森」を三十分程度散策して、季節に応じた生き物を観察する「七塚八景」を行い、その後各種のセミナーを行う。五月と十一月は、特別プログラムとして、広島大学名誉教授である西村清己先生を講師に迎え、万葉集に詠まれた身近な植物を観察し、句の詠まれた背景などを学ぶ「七塚万葉の森植物巡り」を行う。

公衛協活動研究セミナー始まる

組織強化とリーダー育成をねらう

脱温暖化推進員養成研修 参加者募集

新規リーダーの養成を目指して3会場で研修

1泊2日の前期コースでは基礎講座と企画づくりを行い、後期までの期間にそれを実践。後期コースにおいて実践報告と推進員委嘱式を行う。

【三次会場】(申込締め切り済)  
 前期: 6月29日(火)~30日(水) 三次ロイヤルホテル  
 後期: 10月14日(木) 三次市文化会館

【広島会場】(申込締め切り8月6日必着)  
 前期: 9月4日(土)~5日(日) 神田山荘  
 後期: 12月22日(水) 広島県公衆衛生会館

【尾道会場】(申込締め切り7月2日必着)  
 前期: 7月29日(火)~30日(水) しなみ交流館  
 後期: 11月18日(木) 尾道消防防災センター(予定)

参加対象: 地域で地球温暖化防止活動を推進する熱意を有する市民、公衆衛生推進委員。2~3名で1組。

定員: 各会場10組。

申込方法: 各会場の締め切りまでに、申込用書に必要事項を記入し、郵送かFAXでお申し込みください。

主催: 問い合わせ先: 脱温暖化センターひろしま  
 TEL: 082-293-1512 FAX: 082-293-1524 E-mail: hccca@kanhokyo.or.jp

第49回環境保健夏季大学

日時: 平成22年7月8日(木)・9日(金) 受付開始: 12:00~ 開講式: 13:00~

会場: グリーンピアせとうち(呉市安浦町三津口)

対象者: 市町公衛協役員および事務担当者で、これまでの夏季大学への参加が5回未満の方

\*研修内容を考慮し、適任と思われる公衛協関係者の参加も可能

主なプログラム:

- 【1日目】活動発表「わがまちの公衛協を紹介します」
- 【2日目】◆分科会 これからの公衛協活動のヒントを得ます。
  1. 平成21年度環境と健康のコミュニティ活動助成事業の報告会
  2. 全県共通事業重点メニュー研究セミナー
  3. フィールドワーク~自然をとらえて暮らしを見なおそう~
- ◆エコ講座「平々亭青馬(ふるま) & くれ環境市民の会のエコトークショー」

| 市町名    | 募金額(円)    | 達成率   |
|--------|-----------|-------|
| 呉市     | 2,120,266 | 37.9  |
| 府中町    | 812,150   | 76.4  |
| 海田町    | 0         | 0     |
| 熊野町    | 0         | 0     |
| 坂町     | 0         | 0     |
| 江田島市   | 0         | 0     |
| 竹原市    | 0         | 0     |
| 大崎上島町  | 0         | 0     |
| 大竹市    | 2,266,200 | 358.7 |
| 廿日市市   | 0         | 0     |
| 廿日市市佐伯 | 0         | 0     |
| 廿日市市吉和 | 0         | 0     |
| 廿日市市大野 | 0         | 0     |
| 廿日市市宮島 | 0         | 0     |
| 安芸太田町  | 0         | 0     |
| 北広島町   | 541,200   | 133.2 |
| 安芸高田市  | 0         | 0     |

健康感謝募金

~地区衛生組織活動資金募集~

市町別一覧表  
(平成22年5月末現在)

健康感謝募金  
 総額  
**7,148,805円**



| 市町名   | 募金額(円)    | 達成率  |
|-------|-----------|------|
| 東広島市  | 0         | 0    |
| 三原市   | 1,346,760 | 62.7 |
| 世羅町   | 0         | 0    |
| 尾道市   | 0         | 0    |
| 福山市   | 0         | 0    |
| 府中市   | 0         | 0    |
| 神石高原町 | 0         | 0    |
| 三次市   | 0         | 0    |
| 庄原市   | 0         | 0    |
| その他   | 62,229    |      |
| 合計    | 7,148,805 | 20.1 |

※この表は、市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

健康感謝募金は、昭和35年から実施し、今年度で51回目を迎えています。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。